

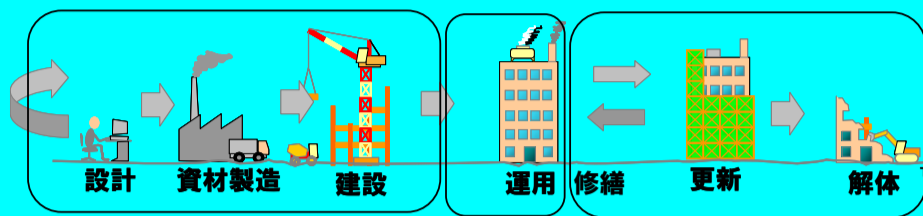


| 重点評価 |

■使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

1 総合評価の結果

建物名称	(仮称)厚木市複合施設建設工事		
BEE(建築物の環境効率)	3	BEEランク	S
			★★★★★

2 重点項目への取組み度

重点項目	評価	劣る	よい
地球温暖化への配慮 (ライフサイクルCO₂) 地球温暖化の主因である二酸化炭素の排出量削減対策に関する項目  LCCO ₂ (ライフサイクルCO ₂): 建設してから解体するまでの建築物の一生(ライフサイクル)で使われる資材・エネルギーをCO ₂ 排出量	LCCO ₂ 排出率	66%	 参照値(一般的な建物)を100%とした場合のLCCO ₂ 排出量 100%超 ~100%以下 ×1 80%超 ~100%以下 ×2 60%超 ~80%以下 ×3 30%超 ~60%以下 ×4 30%以下 ×5
ヒートアイランド現象の緩和 ヒートアイランド現象(=都市部の気温が周辺部よりも高くなる現象)を緩和する対策に関する項目	スコア	3.0	

3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア (5点満点 平均スコア=3点)

地球温暖化への配慮	レベル	評価のポイント	
LR3/1 地球温暖化への配慮	4.3	標準計算によるLCCO ₂ (ライフサイクルCO ₂)排出率を評価	
建設	LR2/2.1 材料使用量の削減	3	構造躯体用部材の生産・加工段階における廃棄物削減の取組みを評価
	LR2/2.2 既存建築躯体等の継続使用	3	既存の建築躯体の継続利用有無および範囲による評価
	LR2/2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	3	躯体材料へのリサイクル材利用を評価
運用	Q1/2.1.2 外皮性能	5	窓まわり、外壁、屋根や床(特にピロティ)における室内への熱の侵入に対する配慮の程度および庇やブラインド等の設置による日射遮蔽の程度を評価
	LR1/1 建物の熱負荷抑制	4.8	室内における「夏の暑さ」と「冬の寒さ」を防ぐための建物の基本性能として、断熱・気密機能を評価
	LR1/2 自然エネルギー利用	3	自然エネルギーの直接利用(採光利用、通風利用、地熱利用など)、変換利用(太陽光、太陽熱など)の導入の有無、導入の割合を評価
	LR1/3 設備システムの高効率化	5	空調・換気・照明・給湯・昇降機によるエネルギー消費量の削減対策を評価
LR1/4 効率的運用	3.5	エネルギーの管理と制御によるエネルギー消費量の削減対策を評価	
修繕 更新 解体	Q2/2.2.1 躯体材料の耐用年数	3	構造躯体などに使用する材料の交換等大規模な改修工事を必要とするまでの期間を伸張させるための対策の程度を評価

ヒートアイランド現象の緩和	レベル	評価のポイント
Q3/3.2 敷地内温熱環境の向上	3	熱的な悪影響を低減する対策(敷地内へ風を導く、緑地や水面を確保する、建築設備による排気や排熱の位置等に配慮するなどにより暑熱環境を緩和する対策)を評価
LR3/2.2 温熱環境悪化の改善	3	温熱環境の事前調査、敷地外への熱的な影響を低減する対策、温熱環境悪化改善の効果の確認に関する取組み度合いを評価

関連項目	レベル	評価のポイント
LR2/1.1 節水	4	節水への取組み度合いを評価
Q3/1 生物環境の保全と創出	3	生物環境の保全と創出に関する配慮(立地特性の把握と計画方針の設定、生物資源の保全、緑の量・質の確保、生物環境の管理と利用など)を評価

主な指標および効果	再生可能エネルギーの導入状況																						
LCCO ₂ の削減率 (= 1-「LCCO ₂ 排出率」)	34%																						
設計上の配慮事項(自由記述) ・高断熱建材を用いた建物の断熱化を図っている。 ・廃熱投入型吸収式冷温水発生器を採用し省エネ化を図っている。 ・地中熱ヒートポンプチャラーを採用している。 ・井水の利用。 ・通信手段の多様化を図っている。 ・街並みとの調和を図るため、外壁色を配慮した配色としている。 ・事前に屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策を行っている。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>有無</th> <th>種類</th> <th>有無</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>太陽光</td> <td>○</td> <td>バイオマス</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">定格出力 (103kW)</td> <td rowspan="2">103.3</td> <td>温度差熱</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>水力</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>太陽熱</td> <td>-</td> <td>地熱</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>風力</td> <td>-</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	種類	有無	種類	有無	太陽光	○	バイオマス	-	定格出力 (103kW)	103.3	温度差熱	○	水力	-	太陽熱	-	地熱	-	風力	-		
	種類	有無	種類	有無																			
	太陽光	○	バイオマス	-																			
	定格出力 (103kW)	103.3	温度差熱	○																			
			水力	-																			
太陽熱	-	地熱	-																				
風力	-																						

□: 入力欄

□: CASBEE-建築(新築)の採点結果から転記してください。

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)厚木市複合施設建設工事	階数	地上9F 地下1F
建設地	厚木市中町一丁目717番地1ほか	構造	S造
用途地域	防火地域、商業地域	平均居住人員	3,560 人
地域区分	6地域	年間使用時間	3,500 時間/年(想定値)
建物用途	事務所,集会所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年3月 予定	評価の実施日	2024年6月1日
敷地面積	8,311 m ²	作成者	清水建設一級建築士事務所
建築面積	5,609 m ²	確認日	2024年6月14日
延床面積	47,764 m ²	確認者	清水建設一級建築士事務所



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 3.0 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (138 kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み 67% (92 kg-CO₂/年・m²)

③上記+②以外の 66%

④上記+ 66%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q のスコア = 4.2

Q1 室内環境

Q1のスコア = 4.3

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 4.2

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 4.1

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.9

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.4

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.5

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.5

3 設計上の配慮事項		
総合	厚木市民が親しみを感じ、訪れることで気付きや学び、創造を享受できる庁舎を目指した。	
その他		
Q1 室内環境	機能面を重視し、吸音性の高いタイルカーペットや天井へ岩綿吸音板を採用	Q2 サービス性能
Q2 サービス性能	執務スペースに対し、十分なリフレッシュスペースを確保。建物コンセプトに合うよう、内装計画を事前に検討し反映した。防災無線発信拠点として機能するよう、免震装置を設けている。	Q3 室外環境(敷地内)
Q3 室外環境(敷地内)	街並みとの調和を図るため、外壁色を配慮、植栽による良好な景観形成している。厚木に根付いた農文学や風土を取り込んだエントランス空間を形成している。	
LR1 エネルギー	廃熱投入型吸気式冷温水発生や地中熱ヒートポンプチャラーを採用し省エネ化を図っている。	LR2 資源・マテリアル
LR2 資源・マテリアル	躯体+LGS+仕上の構成とし、部材の再利用可能性向上に取り組んでいる。	LR3 敷地外環境
LR3 敷地外環境	事前に屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策を行っている。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質									4.2
Q1 室内環境					0.39		-		4.3
1 音環境				4.1	0.15	-	-		4.1
1.1 室内騒音レベル		事務室騒音対策 NC-40		4.0	0.40	-	-		
1.2 遮音				4.3	0.40	-	-		
1 開口部遮音性能		外部サッシュ遮音性能をT-2とする。		5.0	0.69	-	-		
2 界壁遮音性能		-		3.0	0.31	-	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-		-	-	-	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-		-	-	-	-		
1.3 吸音		床:タイルカーペット 天井:ロックウール吸音板		4.0	0.20	-	-		
2 温熱環境				4.4	0.35	-	-		4.4
2.1 室温制御				3.8	0.50	-	-		
1 室温		-		3.0	0.38	-	-		
2 外皮性能		窓:Low-E複層ガラス、外壁:現場発泡ウレタン吹付けt50、屋根:押出成形ポリスチレンフォームt90		5.0	0.25	-	-		
3 ゾーン別制御性		ペリメータ系統にファンコイル用意		4.0	0.38	-	-		
2.2 湿度制御		個別に加湿器用意		5.0	0.20	-	-		
2.3 空調方式		床吹出空調方式		5.0	0.30	-	-		
3 光・視環境				4.0	0.25	-	-		4.0
3.1 昼光利用				3.0	0.30	-	-		
1 昼光率		-		3.0	0.60	-	-		
2 方位別開口		-		-	-	-	-		
3 昼光利用設備		-		3.0	0.40	-	-		
3.2 グレア対策				4.0	0.24	-	-		
1 昼光制御		ブラインド+庇		4.0	1.00	-	-		
3.3 照度		設定平均照度を750 lxとした。		4.0	0.16	-	-		
3.4 照明制御		アドレス制御による1作業単位での照明制御を行う。		5.0	0.30	-	-		
4 空気質環境				4.5	0.25	-	-		4.5
4.1 発生源対策				5.0	0.50	-	-		
1 化学汚染物質		内装工事に用いる材料は特記なき限りJIS,JASのF☆☆☆☆とし、その他VOC濃度に配慮する。		5.0	1.00	-	-		
4.2 換気				3.3	0.30	-	-		
1 換気量		換気量 30 m ³ /h人		4.0	0.33	-	-		
2 自然換気性能		-		3.0	0.33	-	-		
3 取り入れ外気への配慮		-		3.0	0.33	-	-		
4.3 運用管理				5.0	0.20	-	-		
1 CO ₂ の監視		CO ₂ センサによる外調機運転制御		5.0	0.50	-	-		
2 喫煙の制御		全館禁煙		5.0	0.50	-	-		
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-		4.2
1 機能性				4.2	0.40	-	-		4.2
1.1 機能性・使いやすさ				3.4	0.40	-	-		
1 広さ・収納性		-		1.0	0.26	-	-		
2 高度情報通信設備対応		-		3.0	0.26	-	-		
3 バリアフリー計画		建築物移動等円滑化誘導基準を満たしている。		5.0	0.48	-	-		
1.2 心理性・快適性				4.7	0.30	-	-		
1 広さ感・景観		天高:2.7m以上		4.0	0.26	-	-		
2 リフレッシュスペース		執務スペースの2.7%のリフレッシュスペースを確保し、自動販売機を設置する。		5.0	0.26	-	-		
3 内装計画		厚木市民が親しみを感じ訪れることで気づきや学び、創造を享受できる庁舎とした。		5.0	0.48	-	-		
1.3 維持管理				5.0	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計		防鳥ワイヤーを使用し鳥害対策、金属部材に防錆対策有		5.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保		モップの洗濯・乾燥スペース、トイレ毎清掃流し有		5.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性				4.5	0.30	-	-		4.5
2.1 耐震・免震・制震・制振				5.0	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		免震構造を採用しており、50%増の耐震性を有する計画		5.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能		地下1階柱頭免震装置有		5.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				3.5	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数		-		3.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		-		3.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		-		3.0	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		ガリバリウムラッキング使用		4.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水:VP 雑排水:VP 汚水排水:VP		5.0	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔		-		3.0	0.20	-	-		
2.4 信頼性				5.0	0.20	-	-		
1 空調・換気設備		BCP機器の系統分け、免震継手の採用、INVの採用		5.0	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備		系統区分化、井水利用、災害時の受水槽の水道蛇口設置		5.0	0.20	-	-		
3 電気設備		非常用発電設備有、受電設備二重化、引込二重化		5.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法		耐震クラスS相当としている		5.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備		通信手段多様化、引込2ルート化、防災無線発信拠点		5.0	0.20	-	-		

3	対応性・更新性		3.9	0.30	-	-	3.9
	3.1 空間のゆとり		4.4	0.30	-	-	
	1 階高のゆとり	最低階高:4.0m	5.0	0.47	-	-	
	2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率:0.123	4.0	0.53	-	-	
	3.2 荷重のゆとり	-	3.0	0.30	-	-	
	3.3 設備の更新性		4.2	0.40	-	-	
	1 空調配管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	2 給排水管の更新性	PSおよび天井に点検口を設置	5.0	0.20	-	-	
	3 電気配線の更新性	点検口・システム天井での更新・修繕を行う。	5.0	0.10	-	-	
	4 通信配線の更新性	点検口・システム天井・OA床内での更新・修繕を行う。	5.0	0.10	-	-	
	5 設備機器の更新性	電気室・発電機は揚重スペースでの更新を行う	5.0	0.20	-	-	
	6 バックアップスペースの確保	-	3.0	0.20	-	-	
Q3	室外環境(敷地内)		-	0.31	-	-	4.1
1	生物環境の保全と創出	-	3.0	0.30	-	-	3.0
2	まちなみ・景観への配慮	街並みとの調和を図るため、外壁色を配慮、植栽による良好な景観形成	5.0	0.40	-	-	5.0
3	地域性・アメニティへの配慮		4.0	0.30	-	-	4.0
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上	厚木に根付いた農民文学や風土を取り込んだエントランス空間	5.0	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上	-	3.0	0.50	-	-	
LR	建築物の環境負荷低減性		-	-	-	-	3.9
LR1	エネルギー		-	0.40	-	-	4.4
1	建物外皮の熱負荷抑制	BPI=0.82	4.8	0.20	-	-	4.8
2	自然エネルギー利用	-	3.0	0.10	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化	太陽光発電設備の導入	5.0	0.50	-	-	5.0
4	効率的運用		3.5	0.20	-	-	3.5
	集合住宅以外の評価		3.5	1.00	-	-	
	4.1 モニタリング	エリアと用途に応じたWHメーターの設置	4.0	0.50	-	-	
	4.2 運用管理体制	-	3.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価		-	-	-	-	
	4.1 モニタリング	-	-	-	-	-	
	4.2 運用管理体制	-	-	-	-	-	
LR2	資源・マテリアル		-	0.30	-	-	3.5
1	水資源保護		3.4	0.20	-	-	3.4
	1.1 節水	擬音型便器	4.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
	1 雨水利用システム導入の有無	-	3.0	0.70	-	-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無	-	3.0	0.30	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減		3.4	0.60	-	-	3.4
	2.1 材料使用量の削減	-	3.0	0.10	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用	-	3.0	0.20	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材	-	3.0	0.10	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取り組み	躯体+LGS+仕上げ、OAフロアの採用	5.0	0.20	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避		4.3	0.20	-	-	4.3
	3.1 有害物質を含まない材料の使用	ビニル床タイル・シート用接着剤、壁紙用接着剤、サッシ用シーリング、壁塗装	5.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避		4.0	0.70	-	-	
	1 消火剤	-	-	-	-	-	
	2 発泡剤(断熱材等)	ODP0、GWP1の断熱材を使用	5.0	0.50	-	-	
	3 冷媒	-	3.0	0.50	-	-	
LR3	敷地外環境		-	0.30	-	-	3.5
1	地球温暖化への配慮	LCCO2排出率66%	4.3	0.33	-	-	4.3
2	地域環境への配慮		3.1	0.33	-	-	3.1
	2.1 大気汚染防止	-	3.0	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善	-	3.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制		3.5	0.25	-	-	
	1 雨水排水負荷低減	-	3.0	0.25	-	-	
	2 汚水処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
	3 交通負荷抑制	1.利用者にとってアクセス性のよい位置に駐輪場を計画した。 3.4.5敷地内に一時停車スペースを有する地下駐車場を設けた。 (管理、荷捌き用スペースを確保)	5.0	0.25	-	-	
	4 廃棄物処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮		3.2	0.33	-	-	3.2
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
	1 騒音	-	3.0	1.00	-	-	
	2 振動	-	-	-	-	-	
	3 悪臭	-	-	-	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制		3.0	0.40	-	-	
	1 風害の抑制	-	3.0	0.70	-	-	
	2 砂塵の抑制	-	1.0	-	-	-	
	3 日照障害の抑制	-	3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制		4.4	0.20	-	-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	LED照明器具の採用、発光部分の点滅をさせないよう配慮	5.0	0.70	-	-	
	2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	4.0	-	○	○	○	○	-	-	-	-					
1.3.1 維持管理に配慮した設計	9.0		○	○	○	-	○	-	○	○	○	○	○	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	10.0		-	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
2.4.1 空調・換気設備	3.0		-	○	-	○	○								
2.4.2 給排水・衛生設備	4.0	4.0	-	○	○	-	○	-	○						
2.4.3 電気設備	4.0	3.0	○	-	○	○	-	○							
2.4.5 通信・情報設備	5.0		○	○	○	○	○	-							
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	7.0		-	-	-	1.0	1.0	1.0	1.0	-	1.0	1.0	1.0		
2 まちなみ・景観への配慮	5.0		2.0	1.0	-	1.0	1.0	-							
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	5.0		-	-	1.0	1.0	1.0	1.0	-	1.0					
3.2 敷地内温熱環境の向上	8.0		2.0	-	-	1.0	1.0	-	-	2.0	2.0				
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無			-	-	-	-	-	-	-	-					
2.1 材料使用量の削減	2.0		1.0	1.0	-										
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	-	-	-	-								
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0		○	-	○	-									
3.1 有害物質を含まない材料の使用	4.0														
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	10.0		1.0	1.0	3.0	-	1.0	-	-	2.0	-	2.0			
2.3.3 交通負荷抑制	4.0		1.0	-	1.0	1.0	1.0	-							
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	3.0		-	1.0	1.0	1.0		-	-						
3.2.2 砂塵の抑制	-		-	-											
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	4.0		2.0	2.0											

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムSC	0.3	窓の日射熱取得率(η)	0.2
U値(W/m2K)	窓システム 2.8	屋根	0.7
		外壁	0.7
		床	0.9
住戸部分	窓システムU値 -	外皮UA値 -	η AC -
			η AH -

3.1.1 昼光率

昼光率 -

4.2.2 自然換気性能

自然換気有効開口面積率 -

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

執務スペース - /人 病床 - /床 シングル - ツイン -

1.1.2 高度情報通信設備対応

コンセント容量 - VA/m²

1.2.1 広さ感・景観

天井高 - m

1.2.2 リフレッシュスペース

リフレッシュスペース 2.7% レストスペース -

2.2.1 躯体材料の耐用年数

想定耐用年数 - 年

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

想定必要間隔 - 年

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

想定必要間隔 - 年

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

想定必要間隔 - 年

3.1.1 階高のゆとり

階高 4 m

3.1.2 空間の形状・自由さ

壁長さ比率 12.3%

3.2 荷重のゆとり

床荷重 - N/m²

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

外構緑化指数 - 建物緑化指数 -

3.2 敷地内温熱環境の向上

空地率 - 水平投影面積率 - 地表面対策面積率 - 舗装面積率 -

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

BPI/BPI_m 0.82 断熱等性能等級 対象外 相当

2 自然エネルギー利用

自然エネルギー直接利用量 - MJ/年^{m²} 採光を満たす教室数 - 採光を満たす住戸数 -

通風を満たす教室数 - 通風を満たす住戸数 -

3 設備システムの高効率化

BPI/BPI_m 非住宅 0.55 住宅 - 太陽光 103.30kW 太陽熱等 - 蓄電池 -

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

雨水利用率 -

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

特定調達品目 - エコマーク商品 - 自治体指定の特定品目等 -

2.5 持続可能な森林から産出された木材

使用比率 -

3.2.1 消火剤

オゾン層破壊係数(ODP) - 地球温暖化係数(GWP) -

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

オゾン層破壊係数(ODP) 0 地球温暖化係数(GWP) 1

3.2.3 冷媒

オゾン層破壊係数(ODP) - 地球温暖化係数(GWP) -

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比 - 隣棟間隔指標R_w -

地表面対策面積率 - 屋根面対策面積率 - 外壁面対策面積率 -

見付面積S_b - 卓越風向と直交する最大敷地幅W_s - m 基準高さH_b - m

緑地 m² 水面 m² 保水性対策面 m² 高反射対策面 m² 再帰性反射対策面 m²